

# 北海道におけるカラマツ素材及び製材の流通

- 昭和49年度の流通調査から -

本 江 満

道林産課は、このほど昭和49年度の本道におけるカラマツ材の流通状態をとりまとめた。これによると、年々順調な伸びを見せていたカラマツ素材及び製材の流通量は大幅に落ちこんでおり、いわゆるオイルショック後の木材・木製品の需要不振、価格低迷の影響を見ることができ

る。この調査は、44年度（45年度は調査せず）以降実施しているもので、49年4月より50年3月までの1ヵ年間に、多少にかかわらずカラマツ素材及び製材を生産したすべての事業所を対象としている。以下その主なる内容を紹介して参考に供したい。

## 1. カラマツ素材

### 1.1 生産量

この1ヵ年間に、多少によらずカラマツ素材を生産した事業所数は1,065で、48年度より125ヵ所増加しているが、100m<sup>3</sup>以上のカラマツ素材を生産した事業所数では、逆に327から292に減少しており、事業所の小規模化傾向をうかがわせる。これらの事業所で49年度中に生産されたカラマツ素材の林野別量は第1表のとおりであるが、総生産量は対前年比約15%の減となっている。これは全量のほぼ8割を占める個人有林からの生産量が、前年度の71%にとどまったことによるもので、オイルショック後の経済情勢に起因する木材・木製品の需要、価格低迷によりカラマツ素材の生産も抑えられたものと思われる。したがって、地域別に見ても第2表のとおり、前年度に比べわずかな生産増となっている檜山・十勝の両支庁を除くすべての支庁管内が生産減となっている。とくに、渡島・後志・空知・上川及び日高の各支庁管内では前年度の60%以下

第1表 林野別カラマツ素材生産量 (m<sup>3</sup>)

区 分 入 手 林 野 別	立木購入又は自己有林で生産				
	47 年 度	48 年 度	49 年 度	49年度の内訳	
				自 分 で 生 産	下 請 に 出 し て 生 産
国 有 林(営林局)	10,544	13,774	17,187	12,594	4,593
そ の 他 国 有 林	700	2,425	2,582	360	2,222
道 有 林	10,003	20,151	21,074	18,605	2,469
市 町 村 有 林	19,994	21,818	21,730	17,685	4,045
会 社 有 林	19,255	25,624	30,469	24,261	6,208
個 人 有 林	305,195	337,183	260,804	219,342	41,462
そ の 他	2,970	447	1,838	118	1,720
合 計	368,661	421,422	355,684	292,965	62,719

第2表 支庁別カラマツ素材生産量 (m<sup>3</sup>) 及び生産業者数

区 分	47 年 度		48 年 度		49 年 度	
	生産量 (m <sup>3</sup> )	業者数	生産量 (m <sup>3</sup> )	業者数	生産量 (m <sup>3</sup> )	業者数
石 狩	1,196	3	3,880	3	3,743	6
空 知	24,338	26	20,250	22	11,812	23
上 川	87,646	31	52,000	17	31,156	15
後 志	19,041	24	23,650	29	9,943	11
檜 山	2,325	18	2,870	22	4,163	18
渡 島	7,249	15	11,780	22	6,663	14
胆 振	14,183	17	29,490	16	24,255	19
日 高	17,356	14	6,500	16	3,505	14
十 勝	102,472	50	153,400	77	160,698	74
釧 路	9,243	19	12,590	27	10,734	22
根 室	18,858	3	17,010	6	16,020	11
網 走	61,220	28	83,080	56	69,576	53
宗 谷	2,406	7	2,650	6	1,792	6
留 萌	1,158	4	2,270	8	1,624	6
計	368,661	259	421,422	327	355,684	292

第3表 カラマツ素材の径級別割合 (%)

径 級 (cm)	47 年 度	48 年 度	49 年 度
～ 7	14.9	16.7	16.5
8 ～ 13	38.9	34.5	37.8
14 ～ 18	33.7	35.0	33.3
20 ～ 28	11.3	12.7	11.4
30 ～	1.2	1.1	1.0
計	100.0	100.0	100.0

の生産量よりなく、なかでも、主産地の一つである上川支庁管内の前年に引続く低減傾向が注目される。生産されたカラマツ素材の径級別割合は前年度と変

第4表 素材の用途別・仕向先別・地域別出荷量 (m³)

出 荷 別		用 途 別	製 材	坑 木	杭 足 丸	・ 場 太	パ ル プ チ ップ	そ 他	計
47	年 度		159,817	70,702	36,012	79,743	15,169	361,443	
48	年 度		213,378	59,797	37,092	89,463	19,750	419,480	
49	年 度		128,282	72,715	28,028	105,790	18,235	353,050	
構 成 比 (%)	47 年 度		44.2	19.6	10.0	22.1	4.2	100.0	
	48 年 度		50.9	14.3	8.8	21.3	4.7	100.0	
	49 年 度		36.3	20.6	7.9	30.0	5.2	100.0	
49 年 度 の 内 訳	仕 向 先 別	自 家 消 費	51,529	—	541	24,774	1,284	78,128	
		直 販	43,592	33,304	12,174	41,738	7,907	138,715	
		商 社 集 荷 業 者	26,657	29,617	12,085	22,122	6,726	97,207	
		道 森 連	6,504	9,794	3,228	17,156	2,318	39,000	
	出 荷 地 域 別	自 支 庁	118,811	8,644	13,113	70,457	10,689	221,714	
		他 支 庁	5,635	62,966	14,086	35,333	7,346	125,366	
		道 内 計	124,446	71,610	27,199	105,790	18,035	347,080	
		東 北	313	824	—	—	—	1,137	
		京 浜	2,923	281	—	—	200	4,014	
		中 京・静 清	600	—	610	—	—	819	
		阪 神 其 他	—	—	219	—	—	—	
		道 外 計	3,836	1,105	829	—	—	5,970	

向けに匹敵するほどの出荷量となっている。これは製材向けの需要減を振替えたものと判断してよからう。

仕向先別出荷量を比率で見ると、自家消費22.1%、直販39.3%、商社・集荷業者扱い27.5%、道森連扱い11.0%となっている。前年度に比較して商社・集荷業者への出荷量が増え、その他の仕向先への出荷量は減っており、直販から商社・集荷業者扱いへの移行傾向を示している。

地域別には前年度までと同じく道外移出量が減少の傾向を示しているものの、全体に占める割合は1.7%と微増している。

りなく、第3表のように依然として8～18cmが主体をなし71%を占めているが、20cm以上の径級のものにわずかの減少傾向が見られる。

1.2 生産材の用途別、仕向先別、地域別出荷量  
生産材の用途別、仕向先別、地域別の出荷量は第4表のとおりである。

用途別に見ると、年々着実に増加していた製材向けの原木量が、建築需要の減少を反映して前年度の実績を大きく下回り、全量に占める比率も36%に低下している。また、従来から全用途に対する割合の減少傾向にあった杭・足場丸太向けの出荷量が初めて前年度を下回った。しかし、パルプチップ及び坑木向けの出荷量は48年度を上回り、とくに前者は大幅に増え、製材

## 2. カラマツ製材

### 2.1 カラマツ挽き立て工場

50年3月末現在における道内製材工場920工場のうち、17%の160工場でカラマツ材を挽き立てている。これらの工場の出力規模別分布は第5表のとおりで、

第5表 カラマツ挽立工場の規模別工場数

設 備 出 力 (KW)	製材工場 総数(A)	カラマツ挽立 工場数 (B)	比率 B/A (%)
～ 22.5	33	19	57.6
22.5 ～ 37.5	96	42	43.8
37.5 ～ 75.0	320	47	14.7
75.0 ～	471	52	11.0
合 計	920	160	17.4

第6表 カラマツ製材生産規模別工場数及び生産量

生 産 規 模 (カラマツ製材 m³/年間)	～100	100～500	500～ 1,000	1,000～ 3,000	3,000～ 5,000	5,000～	合 計 (平 均)
カラマツ挽立工場数	54	52	20	26	7	1	160
同 上 比 率 (%)	33.8	32.5	12.5	16.2	4.4	0.6	100.0
1工場あたり 生産量	カラマツ製材(m³) 1,638	219 1,088	750 2,060	1,598 686	3,731 3,229	6,301 3,506	(645) (1,439)
同 上 比 率 (%)	3.1	16.8	26.7	70.0	53.6	64.3	(31.0)
カラマツ製材生産量(m³)	2,795	11,399	15,003	41,570	26,120	6,301	103,188
同 上 比 率 (%)	2.7	11.1	14.5	40.3	25.3	6.1	100.0

小規模工場階層ほどカラマツ挽き立て工場数の比率が高くなっている。また、第6表のように生産規模別にみても、年間カラマツ製材量が500m<sup>3</sup>以下の工場数が全体の65%強あるなど、これまでの調査結果と同様にカラマツ製材の小規模さを示している。

カラマツ挽き立て工場一工場あたりの平均年間製材生産量は約2,000m<sup>3</sup>で、うち645m<sup>3</sup>がカラマツ材となっている。その比率は31%で前年度の47%をかなり下回っている。

つぎに、カラマツ挽き立て比率別の生産規模別工場数の分布を第7表に示したが、概して生産規模の小さい工場のカラマツ挽き立て比率が低く、大規模工場の挽き立て比率が高い傾向を示している。

第7表 カラマツ製材生産規模別・カラマツ挽立比率別工場数

区 分	生産規模 (カラマツ製材 m <sup>3</sup> /年間)						計		
	～100	100～500	500～1,000	1,000～3,000	3,000～5,000	5,000～			
カラマツ挽立比率 (%)	～10	10～30	30～50	50～70	70～80	80～90	90～99	100	計
	35	11	2	2	1				44
	6	18	4	2	1				36
	3	4	2	4					8
	7	7	3	4		1			17
	1	5	1	2	2				11
	4	4	1	2	1				8
	1	1	2	3					6
	3	7	6	11	3				30
	54	52	20	26	7	1			160

注 カラマツ挽立比率 =  $\frac{\text{カラマツ製材生産量}}{(\text{カラマツ} + \text{その他}) \text{製材量}} \times 100 (\%)$

第8表 製材用カラマツ素材入手量 (m<sup>3</sup>)

区 分	47年度	48年度	49年度	49年度の内訳	
				自己所有林及び立木購入で生産した量	購入した原木
国有林(営林局)	3,992	8,094	5,849	5,509	340
その他国有林	—	1,157	766	104	662
道 有 林	4,361	5,330	4,754	4,754	—
市 町 村 有 林	10,277	8,337	6,832	1,737	5,095
会 社 有 林	4,512	6,507	6,068	1,718	4,350
個 人 有 林	194,686	187,752	122,082	38,895	83,187
そ の 他	2,455	12,600	4,154	—	4,154
合 計	220,283	229,767	150,505	52,717	97,788

## 2.2 製材用カラマツ素材の入荷量

49年度中に製材工場が製材原料として入手したカラマツ素材の総量は、48年度のおよそ66%、15万m<sup>3</sup>である。これを地域別にみると、自支庁管内からの入手がほとんどで、13.8万m<sup>3</sup>と全量の92%を占める。

第9表 製材用カラマツ素材の径級別割合 (%)

径 級 (cm)	47 年 度	48 年 度	49 年 度
～ 7	6.3	5.5	6.2
8 ～ 13	35.9	31.7	32.8
14 ～ 18	42.2	43.9	43.4
20 ～ 28	13.8	17.5	16.0
30 ～	1.8	1.4	1.6
計	100.0	100.0	100.0

製材用原木の入手量を林野別に示すと第8表のとおりである。また、径級別割合は従来の傾向と変わりなく第9表のようにになっている。

## 2.3 カラマツ製材の生産量及び出荷量

第10表にカラマツ原木消費量、製材生産量及び製材出荷量の年度別推移を示したが、49年度は素材と同様に大幅な落ち込みを見せている反面

輸入カラマツ量が増加の傾向を示しており注目される。

支庁別のカラマツ挽き立て工場数及び製材生産量・出荷量は第11表のとおりである。後志・檜山・渡島・胆振・十勝・網走支庁管内に工場数が多く、生産・出荷量は、素材の主産地である網走・十勝・上川支庁管内に多い。全生産量のほぼ70%をこの3支庁管内の工場が占め、一工

第10表 カラマツ原木消費量・製材生産量及び出荷量 (m<sup>3</sup>)

区 分	原 木 消費量	製 材 生産量	製 材 出荷量	道 内 出荷量	道 外 出荷量
47 年 度	188,865	135,334	134,586	51,216	83,370
48 年 度	197,843 (2,603)	137,067 (1,806)	135,299 (1,804)	57,665 (1,186)	77,634 (618)
49 年 度	149,555 (7,566)	103,188 (5,346)	102,684 (4,855)	42,253 (1,879)	60,431 (2,976)

注 ( )内は輸入カラマツ量で内数

場あたりの平均カラマツ製材量が1,000～2,000m<sup>3</sup>と全道平均をかなり上回っている。

第12表にカラマツ製材の用途別、仕向先別、地域別出荷量を示したが、出荷量のほぼ60%が道外へ移出されており、そのほとんどが商社・集荷業者扱いとなっている。したがって仕向先別には、商社・集荷業者扱

北海道におけるカラマツ素材及び製材の流通

第11表 支庁別カラマツ挽立工場数及び製材生産・出荷量

支庁別	区分	製材工場数 (A)	カラマツ挽立工場数 (B)	比率 B/A (%)	カラマツ挽立工場					
					総原木消費量(m³) A'	カラマツ原木消費量(m³) B'	比率 B'/A' (%)	カラマツ製材生産量(m³)	カラマツ製品出荷量	
									道内(m³)	道外(m³)
石狩	狩	49	6	12.2	22,230	5,600	25.2	3,697	3,598	112
空知	知	69	9	13.0	40,787	5,657	13.9	3,645	1,972	1,668
上川	川	138	5	3.6	19,949	8,880	44.5	6,254	4,596	1,670
後志	志	47	15	31.9	17,235	7,652	44.4	5,117	4,508	609
桧山	山	23	14	60.9	20,740	1,996	9.6	1,423	1,423	—
渡島	島	79	22	27.8	21,069	3,609	17.1	2,504	2,066	416
胆振	振	48	14	29.2	21,669	4,702	21.7	3,238	3,068	80
日高	高	47	—	—	—	—	—	—	—	—
十勝	勝	119	37	31.1	103,186	56,324	54.6	38,028	8,820	29,389
釧路	路	71	3	4.2	14,729	4,824	32.8	3,201	1,528	1,810
根室	室	26	3	11.5	10,184	8,403	82.5	6,247	2,279	3,738
網走	走	162	24	14.8	113,626	35,287	31.1	25,123	6,946	18,117
宗谷	谷	18	6	33.3	90,958	6,305	6.9	4,524	1,262	2,762
留萌	萌	24	2	8.3	1,856	316	17.0	187	187	—
計		920	160	17.4	498,218	149,555	30.0	103,188	42,253	60,431

第12表 製材の用途別・仕向先・地域別出荷量 (m³)

出荷先別	用途別	建築用		土木用		梱包材	製函材 仕組板	緩衝材 (ダンネージ)	ドラム材	パレット 材	その他	計	
		構造材	仮設材	構造材	仮設材								
47年度		32,243	9,906	1,724	19,373	30,919	1,942	18,139	6,775	9,434	4,131	134,586	
48年度		32,112	8,575	2,179	17,433	38,879	5,639	11,789	4,124	8,758	5,711	135,299	
49年度		22,791	6,083	1,074	10,241	25,058	6,690	16,407	1,626	11,075	2,639	102,684	
構成比(%)	47年度	24.0	7.4	1.3	14.4	23.0	1.4	13.5	5.0	7.0	3.1	100	
	48年度	23.7	6.3	1.6	12.9	28.8	4.2	8.7	3.0	6.5	4.2	100	
	49年度	22.2	5.9	1.0	10.0	24.4	5.5	16.0	1.6	10.8	2.6	100	
49年度の 出荷地域別	仕向先別	自家消費	4,636	288	78	114		81			1,712	6,909	
		直販	13,738	2,645	350	3,599	2,801	2,391	1,426		2,941	115	30,006
		商社集荷業者	3,301	2,869	306	5,615	16,249	2,986	11,040	1,626	7,049	458	51,499
		道森	1,116	281	340	913	6,008	232	3,941		1,085	354	14,270
	出荷地域別	支庁	15,606	2,590	428	3,117	982	1,433	1,504	70	3,480	1,769	30,979
		他支庁	2,070	1,264	42	1,989	1,086	1,845	428	47	2,235	268	11,274
		道内計	17,676	3,854	470	5,106	2,068	3,278	1,932	117	5,715	2,037	42,253
		東京	3,094			632	662	113	397	108	184		5,190
		北	1,995	2,129	604	4,382	16,322	1,841	12,192	998	4,031	337	44,831
		中		100		41	5,424	441	1,691	387	1,118	265	9,467
阪					400		137					537	
その他	26			80	182	17	58	16	27			406	
道外計	5,115	2,229	604	5,135	22,990	2,412	14,475	1,509	5,360	602	60,431		

いが多く、直販がこれについている。

道外移出の8割に近い量が比較的相場消費の少ない網走・十勝支庁管内の出荷量で占められ、ダンネージ、梱包材として主に京浜地方へ移出されている。

道内需要では、半分近くを建築用構造材が占め、仮設材、製函材・仕組板などの用途が多くなっている。

流通、価格などについての問題点の提起を求めているが、利用可能な令級が少なく、生産費を要する反面、製品の価格が安いという特徴的な姿に集約できる。なお、カラマツ素材及び製材の価格についても調査されているが、価格変動の幅が大きく割愛した。

- 指導部 調査科 -

(原稿受理 50.10.22)

むすび

この調査では、他にカラマツ素材及び製材の需給、